

進化経済学会  
ニューズレター vol. 28  
Jun. 2010

進化経済学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

国際文献印刷社内

T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Shitennoji03s3200.jpg> から引用

\*\*\*\*\*記事\*\*\*\*\*

第14回進化経済学会サマリーズ

進化経済学会第V期第3回理事会記録

進化経済学会第14回会員総会記録

2009年度部会活動報告

会員の<sup>新刊著</sup>紹介

学会員名簿異動

進化経済学会・オータムカンファレンス・サマースクール案内

第15回進化経済学会実施要項

編集後記

\*\*\*\*\*

## 進化経済学会第14回大会概要報告



第14回大会は「企業組織と福祉レジームの共進化を問う」を統一テーマとして、四天王寺大学（大阪府羽曳野市）大学キャンパス6号館で、2010年3月27日（土）・28日（日）に開催された。非会員を含めて約200人近くの参加があった。世界の政治経済が激変するなかで進化経済学は政策的問題にいかなる貢献ができるのかという問題意識から、実行委員会はこの統一テーマを選定した。

今大会では企画セッション・チュートリアルセッションもふくめて合計24の分科会がおかれ、進化経済学会における研究の多様性を反映した大会スケジュールとなった。開催大学である四天王寺大学からも、共通テーマに即して企業・福祉にかかわる二つの分科会が設定された。普段は社会福祉や企業経営を専門とする開催校所属の教員たちがこれらの分科会に参加したのであるが、これまで他領域の研究者との交流がなかったある報告者か

ら「われわれにとって当たり前のことに思える福祉の現状や問題も、経済学の視点から見れば、別の問題を明らかにすることができるのだということを今回の報告とフロアからの意見を通じて改めて学んだように思う」との意見を得ることができた。こうした発言は、「進化」という概念を旗印に研究に邁進している本学会が、今後もよりいっそう学際的な研究分野の開拓を進めてゆくべきであることを示唆する象徴的事例であるように思われる。

また今大会では、二人の外国人研究者を招聘し、招待講演をおこなった。最終日におこなわれたこの講演では、T. Lawson氏による異端的・多面的な経済学の方法論的立場についての、またB. Théret氏による構造論的アプローチによる福祉国家分析についての報告があり、フロアからの質問に答える形で活発な議論が展開された。なお、懇親会は27日に催され、当日参加者の多くが参加され、Lawson氏も参加された。

今大会での新しい試みとしては、従来おこなわれていた大会参加申込ハガキによる受付をとりやめ、大会ウェブサイトでの受付のみとした。学会会員のほとんどは日常的なインターネット利用に支障がないと考えられるので、ハガキはとくに必要はないと実行委員会において判断し、経費削減および受付処理の一元化を図ったものである。システム上の改善の余地はあったが、おおむね申込受付に問題はなかった。次回以降の大会においてもこの方法を採用することは可能と思われる。

また、従来のポスター・セッションの利点をそのままに、さらに参加の垣根を低めた「リレー・セッション」を、オータム・カンファレンスにおいて実験的に導入した。ポスター・セッションは本大会の昼休みなどを利用して実施されることが多いのであるが、そうした時間帯設定では多くの会員たちにセッション報告者の知見を披露することが難しいことも事実である。期せずして総会においてフロアから「ポスター・セッション開催時間のセッション・スケジュールへの組み入れ」が提案されていたが、実行委員会としても全く同感である。その際、今回実施されたリレー・セッションの形式がたたき台となるのであれば、望外の幸せである。

運営上の反省点はいくつか挙げられる。まず、当初の見通しよりも大会経費が超過したことである。これは、開催大学が小規模であるが故の人員不足から、大会論集の発送作業を外部に委託したことが一つの原因となっている。とはいえ大会関連の予算はもともと潤沢ではないので、今後は大会参加費の徴収を積極的に検討してもよいと考えられる。なお、今大会だけの特徴かもしれないが、思いの外、非会員からの問い合わせや申し込みが多かったように思われる。こうした参加が多くなることは喜ばしいことであるが、その際には非会員の参加に伴って発生する費用の適切な規準の設定をおこなうことも肝要となろう。今回は非会員の参加者についても参加費は設けなかったが、希望者には有償で大会論集を配布した。

また、大会プログラムの発表後に修正が重なり、会員諸氏には大きなご迷惑をおかけし

た。この場を借りて改めてお詫び申し上げる次第である。

このように不手際はあったものの、大会のスムーズな進行にあたって参加者と報告者の方々のご協力をいただき、当日は大きな問題もなくスケジュールを終えることができた。記して感謝したい。また、セッションを企画して下さった方々、司会を快く引き受けて下さった方々、遠く海外よりご参加下さった方々、会場係として実行委員たちをしっかりと支えてくれた学部学生諸君に、とくに御礼を申し上げます。

第14回大会 実行委員会  
委員長 中原隆幸  
事務局長 山本泰三

## 進化経済学会第V期第3回理事会記録

【記録者：宇仁宏幸】

日時：2010年3月27日（土）12時から13時30分

会場：四天王寺大学6号館6A-213教室

会長・副会長・26理事出席、委任2理事。

1. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者6名であるが、第V期第2回理事会での資格承認者が14名、当第3回理事会で資格審査される入会希望者が14名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員400名（休会2名含む）、院生会員100名（休会3含む）、賛助会員（団体1・特別1）、招待会員2名で、計504会員になる。

2. 入会希望者14名について従来から適用した基準に照らして入会資格あるものとした。

<入会者は総会記録5を参照>

3. 澤邊常任理事から、2009年度の会計状況の報告があり、それをふまえて平成22（2010）年度予算案のたたき台が説明された。英文誌の機関講読の拡大、大学プロジェクトとの連携など収入の増加、経費の節減のための様々な提案がなされ、審議の結果、予算案が承認された。この年度の繰越額は325000円と大幅に減少する。2011年度に向けてさらに抜本的な収支改善策を考えるよう要請された。なお、予備費の支出については常任理事会で決済し、理事会に事後報告する。

<予算概要は総会記録7を参照>

4. 第14回大会は百数十人の参加を経て、順調に進行していると運営委員会から報告された。また、諸事情により大会関連経費が最大で73442円の支出超過になる見込みが報告され、了承された。第15回大会の開催大学である四天王寺大学に所属する鍋島会員から、オータムコンファレンスを9月25日、第15回大会を2011年3月19-20日に開催したい、ま

たテーマとして「経済システムの進化と多様性」をとりあげたいと説明された。

5. 国際英文誌 EIER の有賀編集委員長から第6巻2号の刊行状況が説明され、発掘型会員論文推薦などの新企画や大学プロジェクトとの連携企画が進行していると説明があった。また機関講読拡大のため定期購読申込書を会員に送付するとの説明があった。

6. その他として、吉田雅明理事から「企業・産業の進化研究部会」の準備状況が報告され新設が承認された。宇仁常任理事から、経費削減の一環として「ニューズレター」の紙媒体から電子媒体への移行が提案された。この件の周知とメーリングリストへの加入呼びかけのために次号は紙媒体で発行し、次々号からは、メーリングリストによる「ニューズレター」の送信とホームページへの掲載に移行することが承認された。理事会開催通知と出欠通知をEメールで行うことも承認された。

## 進化経済学会第14回会員総会記録

【記録者：宇仁宏幸】

1. 進化経済学会第14回会員総会は、2010年3月28日（日）16時から17時まで、四天王寺大学6号館6B-253教室で開催された。

2. 会員総会の議長として、清水耕一会員が推薦され、承認された。

3. 吉田会長から挨拶があった。

4. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者6名であるが、第V期第2回理事会での資格承認者が14名、当第3回理事会で資格審査される入会希望者が14名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員400名（休会2名含む）、院生会員100名（休会3含む）、賛助会員（団体1・特別1）、招待会員2名で、計504会員になる。

5. 第3回理事会で入会資格あるとされた以下の入会希望者14名を新会員として迎え入れた。

谷本和也（大阪市立大学・院）、崔蘭（大阪市立大学・院）、三田村明子（大阪市立大学・院）、池田栄子（大阪市立大学・院）、土居幸代（大阪市立大学・院）、大野境子（大阪市立大学・院）、村田真理（大阪市立大学・院）、藤井洋平（大阪市立大学・院）、安本雅典（横浜国立大学）、土井康裕（名古屋大学）、鈴木晃志郎（首都大学東京）、揚虎寿（中南財経法大学）、加藤寛之（国士館大学）、神崎稔章（小樽商科大学）

6. 2008年度の決算が示され、監査委員の評価を求めた上で、それを承認した。

<ニューズレター27号掲載済み>

7. 澤邊常任理事から、平成22（2010）年度の予算案の提案がなされ、審議の結果承認された。この年度の繰越額は325000円と大幅に減少する。2011年度に向けてさらに抜本的な収支改善策を考えるよう要請された。なお、予備費の支出については常任理事会で決済し、理事会に事後報告すると説明された。

<予算概要>

収入 前年度繰越（見込み） 725,000円

会費	4,395,000円
書籍売却代	200,000円
計	5,320,000円
支出 大会費	1,000,000円
英文誌刊行費	2,000,000円
通信費	200,000円
交通費	100,000円
事務雑費	50,000円
謝金	40,000円
送金手数料	20,000円

会議費	100,000円
印刷費	200,000円
事務委託費	750,000円
国際交流費	50,000円
部会補助費	350,000円
経済学会連合	35,000円
予備費	100,000円
小計	4,995,000円
平成23年度への繰越	325,000円
計	5,320,000円

8. 第14回大会は順調に進行したと大会運営委員会から報告された。第15回大会については、名古屋大学においてオータムコンファレンスを9月25日、第15回大会を2011年3月19-20日に開催したい、またテーマとして「経済システムの進化と多様性」をとりあげたいと説明された。

9. 国際英文誌EIERの有賀編集委員長から第6巻2号の刊行状況が説明され、発掘型会員論文推薦などの新企画や大学プロジェクトとの連携企画が進行していると説明があった。また機関講読拡大のため定期購読申込書を会員に送付するとの説明があった。

10. その他として、宇仁常任理事から、「企業・産業の進化研究部会」の新設、および「ニューズレター」の紙媒体から電子媒体への移行が提案され、承認された。ニューズレターについては、この件の周知とメーリングリストへの加入呼びかけのために次号は紙媒体で発行し、次々号からは、メーリングリストによる「ニューズレター」の送信とホームページへの掲載に移行することとなる。塩沢理事から、次期の大会では、ポスター・セッションの運営に関して、聴衆の増加させる工夫をしてほしいとの提案があった。

## 部会活動報告

### 2009 年度「現代日本の経済制度」部会研究会活動報告

#### 第1回研究会

日時：2009年4月19日（日）13:00～17:00

場所：横浜国立大学サテライト・キャンパス

内容：

第1報告 原田裕治（名古屋経済大学）・遠山弘徳（静岡大学）

“Towards the Comparative Analysis of the Asian Economies: Stylized Facts and Research Agendas”

第2報告 磯谷明徳（九州大学）

“The Transformation of the Japanese Corporate System and the Hierarchical Nexus of Institutions”

第3報告 Frederic Guy (The University of London)

“The Global Environment of Business Systems”

#### 第2回研究会「進化的制度としての貨幣」

日時：2010年3月26日（金）14時～17時

場所：京都大学 法経学部東館1階 108 演習室

内容

はじめに：中原隆幸（四天王寺大学）

ブルーノ・テレ教授の紹介

第一報告：坂口明義（専修大学）

「貨幣と社会の関係および近代貨幣の特殊性について--M. アグリエッタ/A. オルレアン 編著『主権貨幣』を手がかりとして」

」

第二報告：Bruno Théret (CNRS, Université de Paris Dauphine)

“Money as Evolutional Institution”

### 企業・産業の進化研究部会報告

「企業・産業の進化研究部会」は、昨年度の5回の準備研究会と大会での企画セッション「産業・企業組織の進化」を経て、四天王寺

大会で承認され、今年度より正式発足した新しい部会である。経営学と経済学の事例紹介・交流にとどまらず、そこから新たな理論として何を打ち出すことができるのかを模索し、さらに一步踏み込んだ学融合を目指して、毎回活発な議論が行われている。開催場所は、東京大学ものづくり経営研究センター（東京大学経済学研究科学術交流棟（小島ホール5階））、日時・テーマは学会MLで案内される。ちなみに、これまでに行われた部会（テーマと報告者）は以下のとおりである。

第1回（5月20日）

「制約条件、人材確保、および設計思想・組織能力の進化」藤本隆宏氏（東京大学）

第2回（7月22日）

「進化という概念について」塩沢由典氏（中央大学商学部）

「ノンテリトリアル・オフィスの実証研究」稲水伸行氏（ものづくり経営研究センター）

第3回（10月14日）

「デジタル家電産業におけるビジネスモデルによる競争」丹沢安治氏（中央大学総合政策学部）

「製品アーキテクチャの組織内選択プロセス—デジタル複合機の事例—」福澤光啓氏（東京大学ものづくり経営研究センター）

第4回（12月16日）

「産業の国際競争力とリカード・スラッファ貿易論」塩沢由典氏（中央大学商学部）

「インテグラル化と競争優位のメカニズム—日本工作機械産業の事例—」鈴木信貴氏（東京大学ものづくり経営研究センター）

第5回（2月10日）

「会計学における利益概念とその変遷」坂上学氏（法政大学経営学部）

「中国民族系自動車メーカーのものづくり—奇瑞汽車を事例として」李澤建氏（東京大学ものづくり経営研究センター）

第6回（4月7日）

「日本の雇用システムと企業統治：ポストバブルからポストリーマンまで」宮本光晴氏（専修大学経済学部）

第7回（6月15日）

「開発生産性のディレンマ — デジタル化時代のイノベーション・パターン」生稲史彦氏（文京学院大学経営学部）

## 「現代日本の経済制度」部会

### 2009年度第1回研究会

日時：2009年4月19日（日）13時～17時  
 場所：桜木町ランドマークタワー18階 横浜国立大学サテライト・キャンパス

内容：

- ・原田裕治（名古屋経済大学）“Towards the Comparative Analysis of the Asian Economies: Stylized Facts and Research Agendas”
- ・磯谷明德（九州大学）“The Transformation of the Japanese Corporate System and the Hierarchical Nexus of Institutions”
- ・Frederic Guy（The University of London）“The Global Environment of Business Systems”

### 2009年度第2回研究会

日時：2010年3月26日（金）14時～17時  
 場所：京都大学 法経学部東館1階 108演習室

内容：

- ・坂口明義氏（専修大学）「貨幣と社会の関係および近代貨幣の特殊性について--M. アグリエッタ/A. オルレアン編著『主権貨幣』を手がかりとして」
- ・Bruno Théret “Money as Evolutional Institution”

## 「制度とイノベーションの経済学」部会報告

第1回：

日時：7月5日（日）14:00-17:00  
 場所：河合塾京都校

報告者：

- 1) 武田壮司（京都大学研修員）「制度におけるイノベーション・プロセスの相互作用：シュンペーターの『景気循環論』を中心に」
- 2) 清水耕一（岡山大学）「フランスにおける35時間労働制の実態：法と労使関係」

第2回：

日時：10月3日（土）14:00-17:00  
 場所：河合塾京都校

報告者：

- 1) 古山友則（京都大学大学院）「R. A. Fisher's principle and efficiency」
- 2) 八木紀一郎（京都大学）「体制転換と制度の政治経済学」

第3回：

日時：12月5日（土）14:00-17:00  
 場所：河合塾京都校

報告者：

- 1) 徳丸宜穂（名古屋商科大学）「インドIT産業の輸出指向型発展と能力形成：その構造的性質とパス・クリエーションの可能性」
- 2) 江口友朗（法政大学）「アジア通貨危機後のタイの家計行動における特徴と差異：インフォーマルな制度分析に向けた統計的実態に基づく検討」

## 観光学研究部会報告

2年目を迎え、活発な活動を繰り広げて参りました。昨年は研究会を3回開催いたしました。

第4回研究会

日時 2009年7月10日（金）

場所 秋葉原ダイビル12F 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

講演1 横山悟（元日本航空） “セルビアの観光振興”

講演2 下田孝行（南足柄市産業建設部）

“民・官及び広域連携による地域振興策「足柄リバーフェスタ2009：金太郎ダックレース in 酒匂川」”

第5回研究会

日時 2009年9月19日（土）

場所 四天王寺大学・藤井寺駅前キャンパス  
 観光学研究部会 ワークショップ “研究計画書の作り方”

第6回研究会

日時 2010年3月26日（金）

場所 大阪市立大学梅田キャンパス

講演1 神田経治（大阪府府民文化部）  
 “大阪府の都市魅力施策の取り組み”

講演2 八巻恵子(京都大学) “フライトアテンダントの仕事の人類学”  
※肩書きは当時のものです・敬称略

この他、2010年4月に、部会長井出と幹事深見の編集による「観光とまちづくり—地域を活かす新しい視点」(古今書院)を上梓いたしました。この本は観光を多面的に捉えているところが特徴的であり、観光を考える上での新しい視点を提示しております。お手にとっていただけますと幸いです。

**2009年度非線形問題研究部会  
報告**

進化経済学会非線形問題研究部会の2009年度研究会は下記の活動いたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メイリングリストevoecojapanのほか、有賀のホームページ(<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>)で案内しています。

-----  
1. 研究会セミナーの開催  
-----

進化経済学会非線形問題研究部会 2009年度  
No. 1

日時 2009年11月4日(水)-7日(土)  
場所 中央大学駿河台記念館  
ア ク セ ス  
[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access\\_surugadai\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_surugadai_j.html)  
複雑系会議09: 第9回環太平洋複雑系会議  
Complex'09: The 9-th Asia-Pacific Complex System Conference  
November 4-7, 2009

進化経済学会非線形問題研究部会 2009年度  
No. 2

主催 中央大学企業研究所公開研究会  
日時 2010年1月22日(金) 12:30-14:00  
場所 中央大学多摩キャンパス2号館4階会議室  
ア ク セ ス  
[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access\\_tama\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html)

講師 Mauro Gallegati  
(Professore ordinario, Università Politecnica delle Marche)  
論題 Financially Constrained Fluctuations in an Evolving Network Economy

関連セミナー: 中央大学大学院商学研究科ワークショップ

主催 中央大学大学院商学研究科(U-Martワークショップ[担当:有賀])  
日時 2010年1月20日(水) 16:35-  
場所 中央大学多摩キャンパス2号館1階2109号室(マルチメディア教室)  
ア ク セ ス  
[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access\\_tama\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html)

講師 Mauro Gallegati  
論題 The Asymmetric Effect of Diffusion Processes: Risk Sharing and Contagion  
(金融の拡散過程が好況時と不況時に非対称的な作用をすることを考察する。この非対称性をシミュレーションによって確認し、感染のチャンネルを不況期に断ち切る政策提言を行う。)

-----  
2. 会計報告  
-----

収入の部  
繰越金 39,254 前期より繰越  
部会補助費 50,000  
後援補助費 50,000 第9回環太平洋複雑系会議(進化経済学会後援)  
収入合計 139,254

支出の部  
講師謝礼 100,000 Professor Matthew Jackson, Stanford University  
次期繰越 39,254  
支出合計 100,000

このあとに監査人の署名

吉田雅明

以上のとおり相違ありません。



-----  
 APPENDIX. 第9回環太平洋複雑系会議報告書  
 -----

標記について、下記の通り報告いたします。

会議名：(英文) The 9th Asia-Pacific Complex Systems Conference

(和文) 第9回環太平洋複雑系会議

会期：(全会期) 2009年 11月 4日～ 2009年 11月 7日

会議用語： 英語

主催機関名：(英文) Complex'09 Organizing Committee

(和文) Complex'09 組織委員会

母体機関名：1992年 ANU で開催依頼その都度開催地で組織委員会を結成。

会議参加状況 参加国数： 12 カ国

参加国名：日本、オーストラリア、韓国、インドネシア、台湾、米国、アイルランド、チェコ、ポーランド、カナダ、ドイツ

参加者総数：92 (80 報告) 人、

日本側参加者数：64 (55 報告人)

会場： 中央大学駿河台記念館

主要議題：(英文) How to manage complexity  
 (和文) 複雑系の管理

出版物：✓プロシーディングス(議事録) 大部のためUSB で配布

✓その他(特別セッション企画の一部は Evolutionary and Institutional Economics Review vol.7(2010)に審査のうえ掲載予定)

会議において得られた成果・その他学術的特記事項：

まず当会議のプロファイルについて述べる。1992年オーストラリア国立大学で開催された Complex Systems '92: from biology to computation を第1回目として、オーストラリアを中心に主としてコンピュータ科学者たちが持ち回りによって、隔年で複雑系科学の国際会議を開催されてきた。この会議で今回が第9回目にあたる。特記すべきは、この会議の第6回目は、すでに中央大学多摩キャンパスで2002年9月9-11日に開催されていることである。この成果が Advances in Complex System, vol.6, no.3 特集号(生天目、有賀共

同編集)として掲載されるなどの成功により、再度の開催が熱望された。

国際会議は多くの場合、plenary talks のスピーカーの話題を見ればその特徴がわかるものである。今回は北米からはスタンフォード、UCLA、ヨーロッパからはスイス連邦工科大学、ワルシャワ工科大学、日本から東京大学のゲストを迎えた。チュートリアル講演を含むと本会議では計6講演である。時間順序で列記すると次のとおりである。

(1)Nov 4, 15:30-16:30 Tutorial: Statistical Aspects of Complex Systems - From aged people's diseases to municipality populations, by Professor Mitsugu Matushita (Chuo University, Japan)

(2)Nov 4, 17:00-18:00 Invited Talk: Non-self averaging Phenomena, Ignored Factor in the Explanation for the Recent Macro Economic Disaster, by Professor Masanao Aoki (UCLA, USA)

(3)Nov. 5, 9:30-10:30 Invited Talk: Jamology - traffic jams of self-driven particles, by Professor Katsuhiro Nishinari (University of Tokyo)

(4)Nov. 5, 13:20-14:20 Invited Talk: How Social Network Structure affects Diffusion and Learning, by Professor Matthew Jackson (Stanford University)

(5)Nov. 6, 9:00-10:00 Invited Talk: Complexity of collective emotions, by Professor Janusz Holyst (Warsaw University of Technology)

(6)Nov. 6, 13:30-14:30 Invited Talk: Predicting Systemic Risk: The role of contagion and cascades, by Professor Frank Schweitzer (Chair of Systems Design, ETH Zurich, Switzerland)

本会議の名誉議長の松下貢教授(中央大学)はオープニングアドレスによれば、日本には非線形および複雑系の理論的伝統があり、物理学者でエッセイストとして著名であった寺田寅彦は戦前、すでに対称性の破れを認識しており、フラクタル、複雑系への科学の発展を予想していた。これは最近のノーベル物理学賞受賞の南部陽一郎の理論に通じている。このように複雑系にかんしては日本にオリジナルな伝統があるといつてよく、日本人研究者が多く参加する原因となっている。Prof.

Nishinari の交通渋滞学は車の流れに共通の self-driven particle があることを見抜き、逆に分子の世界にも psychological forces があるという推論を行う。そして実際の交通渋滞の解消モデリングを提案する。Prof. Aoki は経済のマクロシステムに nonself-averaging の力が働くこと、マクロ的な動的プロセスはつねに不決定性の影響を蒙ることを壺モデルで示した。また Prof. Holyst は群集心理のような集合的力が働くとき経済も政治も重要性を失うので、emotion の効果を詳細に分析する。これは EU の研究プログラムの一つである。社会ネットワークで同じ意見に接続しようとする傾向 homophily が強いと意見調整の学習過程は遅くなる。人種が多様である高校でのネットワーク分析はスタンフォードの経済学部教授 Prof. Jackson によってなされたのは「主流派経済学」の変化を感じさせた。最後に、ネットワークのマクロとミクロの関係を解析するモデリングは Prof. Schweitzer によって表明された。彼の議論では、ネットワーク崩壊のシステムリスクはきちんとミクロ的なネットワークの変化によって解析することができる。英国女王によるなぜ金融恐慌を予測できなかったのかという London School of Economics (LSE) に対する質問にたいして LSE は個々のエージェントは最善に正しく行動したが全体のリスクを予測できなかったと回答した。主流派経済学もシステムリスクに正面から取り組まねばならないであろう。

なお、一般投稿のほかに計画された特別セッションも設けられた。

Session 01 Measurement and Management of Socio-Economic Systems

Session 02 Emergence in Complex Biomedical Systems

Session 03 Artificial Life

Session 04 Complex Marketing and Consumer Behavior

特別セッションの一部の論文は、改めて審査のうえ、進化経済学会機関誌 Evolutionary and Institutional Economics Review vol. 7, no. 1 (2010) に Complex09 の特集号を組み、論文掲載が予定されている。

最後に、大会名誉議長の松下教授が指摘するように、Complex09 は複雑系の各種分析が今世紀の研究の一般的ツールになることを感じさせた会議であった。

注 1) 中央大学商学部 100 周年事業の一環として開催された。

注 2) Japan Association for Evolutionary Economics より後援された。

注 3) Society for economic Science with Heterogeneous Interacting Agents と共催された。大会の資料として機関誌 Journal of Economic Interaction and Coordination が配布された。

非線形問題研究部会 有賀裕二 (文責)

新刊案内

・川越敏司先生が『行動ゲーム理論入門』(NTT出版, 2,625円)を出版されましたので、お知らせいたします。

目次

- 第0章 行動ゲーム理論の概要
- 第1章 決定不能性
- 第2章 混合戦略
- 第3章 学習理論
- 第4章 予測と推論
- 第5章 ロジット均衡
- 第6章 コーディネーションとコミュニケーション
- 第7章 メカニズム・デザイン論
- 第8章 社会的学習と制度変化

・酒井泰弘（滋賀大学、龍谷大学、筑波大学）先生が新著『リスクの経済思想』を出版しましたので、お知らせ致します。

酒井泰弘 著 『リスクの経済思想』 ミネルヴァ書房 3月31日刊

不確実性によるリスクが高まりつつある昨今の社会経済情勢です。本書では、リスクの経済学の先駆者であるスミスとベルヌーイから始めて、パスカル、ナイト、ケインズ、ロビンソン、ノイマン、モルゲンシュテルンらの思想を論じ、さらにはアロー、アカロフ、スティグリッツ、スペンス等の体系にも言及します。その中で、不確実性を加味した経済分析と時代背景を考察し、新しい経済学の方向を模索します。

[内 容]

- 第1章 社会のあり方とリスク観の変化  
ー激動の20世紀から再生の21世紀へー
- 第2章 リスクの経済学の過去・現在・未来  
ー五つの時代区分と時代背景ー
- 第3章 リスクの経済学の二人の先駆者  
ーダニエル・ベルヌーイとアダム・スミスー
- 第4章 サイコロの賭けと確率論的思考  
ーパスカルのリスク観を考えるー
- 第5章 不確実性とアニマル・スピリッツ

ーナイト、ケインズ、ロビンソンを貫くものー

第6章 同盟と抗争の時代とゲーム論的思考

ーコナン・ドイルの推想法とモルゲンシュテルンの異論ー

第7章 異才フォン・ノイマンとゼロ和ゲームーコイン合わせとジャンケンが基本ゲームー

第8章 非対称情報と市場経済のワーキングーリスクの経済思想の視点からー

人名・事項索引

・浅田統一郎(中央大学経済学部)先生が共著者として参加している英文新刊書が出版されましたので、お知らせします。

T. Asada, C. Chiarella, P. Flaschel, and R. Franke "Monetary Macrodynamics" (Routledge, London, 2010, 448 pages)

Content

General Introduction

Part I Conventional AD-AS modeling

Part II Matured Keynesian AD-AS model building

Part III The road ahead : real-financial market interaction from a Keynesian perspective

About the Book

This book investigates the interaction of effective goods demand with the wage-price spiral, and the impact of monetary policy on financial and the real markets from a Keynesian perspective. Endogenous business fluctuations are studied in the context of long-run distributive cycles in an advanced, rigorously formulated and quantitative set up. The material is developed by way of self-contained chapters on three levels of generality, an advanced textbook level, a research-oriented applied level and on a third level that shows how the interaction of real with financial markets has to be modelled from a truly integrative Keynesian perspective.

The book is a detailed critique of US mainstream macroeconomics and uses rigorous dynamic macromodels of a descriptive and applicable nature. It will be of particular relevance to postgraduate students and researchers interested in disequilibrium processes, real wage feedback channels, financial markets and portfolio choice, financial accelerator mechanisms and monetary policy.

・井上泰日子先生が『新・航空事業論』（日本評論社）出版されましたので、ご紹介いたします。

書名：『新・航空事業論』

出版社：日本評論社

発売開始：2010年4月19日

目次：

第一部 航空事業

第1章 航空の歴史

第2章 規制緩和とオープンスカイ政策

第3章 低コスト航空会社

第4章 航空会社間の提携

第5章 航空事業と航空政策

第6章 航空貨物

第7章 航空安全

第8章 地球環境

第9章 航空事業の基本構造

第10章 空港

第11章 国際航空法

第12章 航空機の進化と国際政治

第13章 エアライン・ビジネスの未来像

第二部 ツーリズム

第14章 ツーリズムの基本構造

第15章 オープンな国を目指して ー鎖国政策と外国人留学生受入の課題ー

第16章 シンガポールの国家戦略 ーツーリズムの視点からー

## 第15回 進化経済学会 全国大会の御案内

### 1. 大会趣旨

大会共通テーマ「グローバル経済の危機と制度・企業の進化」

2008年のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機は、現在先進工業国で大きな政策転換を促しています。また中国、インドというアジア地域の新興工業国は、その渦中で成長を続けて存在感を高め、世界的なレベルで経済秩序の枠組みが変化していることを示しています。さらに危機直後に成立したアメリカ合衆国のオバマ政権が、従来EU諸国が提唱してきた「エコロジー的近代化」、「資源・エネルギー節約型成長」、「スマート成長」などと呼ばれる環境・経済政策に類似した「グリーン・ニューディール」を採用したことは、国際社会で地球温暖化対策への取り組み強化が要請される中で、日本の成長戦略にも影響を与えると考えられます。

このような世界経済の潮流の転換に対応して、新しい政策的、制度的枠組みを構築することが緊急に求められています。各国政府や国際機関の中には新自由主義的政策を半ば放棄する傾向が見られますが、明確な代替案はなく、試行錯誤的な政策運営が行われるにとどまっています。これらの変化をとらえ、長期的な展望を提示する経済学の理論的枠組みは、依然不透明なままとなっています。従来型の均衡論的なアプローチに固執せず、市場経済・企業の進化、制度の多様化といったダイナミズムを様々な角度から実証的、理論的に把握しようとしてきた進化経済学は、以上のような世界経済の状態と国際的な政策コミュニティの現状に対して、より有効で包括的な代替モデルを提示する能力をもつものと考えられます。

本年度の大会では、以上のような進化経済学が果たすべき役割を認識し、経済危機と世界的な市場経済の変貌、これに対処する政策枠組みを検証しつつ、経済システムの進化を解明する理論の発展をはかることをテーマとします。

### 2. 大会日程

① サマースクール 2010年9月24日（金）

時間：13時18時

開催地：名古屋大学 東山キャンパス 経済学部研究科棟

（会場までのアクセスについては、末尾の地図を御参照下さい）

② オータムコンファレンス 2010年9月25日（土）

時間：13時18時

開催地：名古屋大学 東山キャンパス 経済学部研究科棟

オータムコンファレンス終了後、懇親会（東山キャンパス内 南部食堂）を予定しております。

③ 全国大会 2011年3月19日（土）及び20日（日）

時間：10時17時を予定

開催地：名古屋大学 東山キャンパス 経済学部研究科棟

（詳細は決まり次第大会HPおよびMLでお知らせいたします）

なお、3月19日（土）のセッション終了後、懇親会（東山キャンパス内 南部食堂）を予定しております。

### 3. サマースクール 概要

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2008年度に衣替えしましたサマースクールですが、今回も2名の講師をお迎えいたしまして、開催いたします。今回は労働経済学、中でも実証研究と企業調査をご専門とされる講師の先生方に、研究者になられた経緯、ご自身がどのような形で研究を進めて行かれるのか、現在のご研究を専門分野以外の方にもわかりやすくご説明していただきます。質疑応答の時間も設けます。

また、夕方の部では「国際学会に行こう！」と銘打って、研究の最先端を知るためまた自身の研究成果の発表のために避けては通れない国際学会への出席や国際学会での発表について、世話人の小山友介(芝浦工業大学・准教授)・小川一仁が発表いたします。

#### 講演者

・ 斎藤隆志先生：早稲田大学高等研究所・助教（労働経済学）

論題：TBA

・ 古谷眞介先生：大阪産業大学経済学部・准教授（労働経済学）

論題：TBA

日時：2010年9月24日(金)名古屋大学 経済学部研究科棟 第3講義室

午後1時半-午後2時半：斎藤先生

午後3時-午後4時：古谷先生

午後4時半-午後6時：「国際学会へ行こう！」 担当：小山友介・小川一仁

午後6時半-懇親会(場所未定)

事前申し込み：資料印刷の準備もありますので、小川一仁(大阪産業大学経済学部・kz-ogawa@eco.osaka-sandai.ac.jp)まで9月5日までにご連絡ください。もちろん、当日参加も歓迎いたします。

### 4. オータムコンファレンス 概要

2010年9月25日(土) 1~3時30分

(名古屋大学 東山キャンパス 経済学部研究科棟)

<オータム・コンファレンス特別シンポジウム>

「緑の産業革命?—世界金融危機以後のスマート成長論をめぐって」

ゲストスピーカー

ミランダ・シュラーズ（ベルリン自由大学教授、同環境政策研究所所長、ドイツ政府環境政策専門委員会委員）

松下和夫（京都大学大学院地球環境学堂教授、国連大学高等研究所客員教授、国際協力機構（JICA）環境ガイドライン担当審査役、（財）国際湖沼委員会（ILEC）理事）

（詳細は決まり次第大会 HP および ML でお知らせいたします）

## 5. オータムコンファレンス参加および全国大会報告の申し込みについて

オータムコンファレンスへの参加、および全国大会での報告につきましては、以下の日程で募集致します。皆様奮ってご応募下さいませよう、よろしく願い申し上げます。また事務局における参加人数把握のため、大会に参加下さる方はその旨を御連絡下さいませよう、ご協力をお願い申し上げます。

### (1) オータムコンファレンス参加について

懇親会の人数把握の都合上、参加をご希望の方は必ず大会ホームページ（<http://shinka-nagoya.upper.jp/shinka/15shinka/>）内の申し込みフォームより、8月31日（火）までにお申し込み下さい。

なお今年度大会事務局では、宿泊の御案内は行っておりません。宿泊をご希望の方は各自でご手配頂きますようお願い申し上げます。

### (2) 全国大会報告申し込みについて

#### ① 募集セッションについて

これまでの大会に倣いまして、今大会においてもセッションを実施致します。御参考までに、主要なものを以下に列挙させて頂きます。なお、以下のセッションの設定は会員の皆様の報告内容を制約するものではありません。皆様方のご関心に沿ったテーマにてご応募下さい。また、新規セッションのご希望など御座いましたら、ご応募の前に一度大会事務局まで御相談下さいませよう、お願い申し上げます。

#### <セッション例>

- (1) 進化と経済思想
- (2) 社会経済の進化
- (3) イノベーション・システム
- (4) 構造変化と技術革新
- (5) 制度と政策
- (6) 制度設計とガバナンス
- (7) 観光学
- (8) 貨幣・金融システムへの進化経済学的アプローチ
- (9) 日本経済、日本企業への進化経済学的アプローチ
- (10) U-Mart
- (11) 社会経済実験
- (12) 進化ゲーム
- (13) 経済物理学
- (14) マルチ・エージェント・シミュレーション
- (15) 制度派経済学
- (16) 自由論題

#### ② 全国大会報告申し込み期限について

9月5日（日）までに大会メールアドレス（[shinkanagoya@gmail.com](mailto:shinkanagoya@gmail.com)）へ、①お名前、②ご所属とご連絡先（a. 自宅住所、b. 直通電話番号、c. メールアドレス）、③報告希望テーマを記入の上、お申し込み下さい。

理事会の審査を経た後、10月初旬ごろに報告希望者に対して大会委員会から報告の可否をメールでご連絡申し上げます。なお、報告希望者が少ない場合、募集期限を延長することがあります。

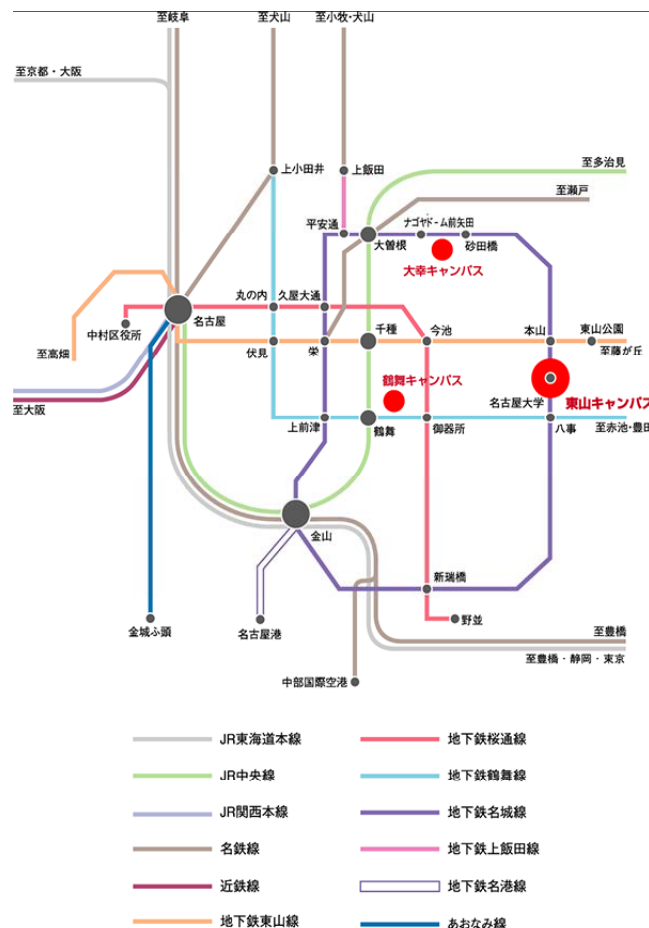
③大会報告論文の提出期限：12月31日（金）厳守でお願い申し上げます。

④大会参加の申し込みについて

全国大会の参加申し込みは、大会HP (<http://shinka-nagoya.upper.jp/shinka/15shinka/>)内の申し込みフォームで受け付ける予定です。詳細は大会HPを御覧ください。

なお、オータムコンファレンスと同様に、今年度大会事務局では宿泊の御案内を行っておりません。宿泊をご希望の方は各自でご手配頂きますようお願い申し上げます。

以上





<会場までのアクセス>

- ・地下鉄名城線名古屋大学駅 一番出口すぐ
- ・JR 名古屋駅（名鉄／近鉄名古屋駅）からの場合…地下鉄東山線藤が丘行きに  
乗車し、本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え、名古屋大学駅下車。所要時間  
約 30 分（乗換含む）
- ・ JR 金山駅・名鉄金山駅からの場合…地下鉄名城線左回りに乗車し、名古  
屋大学駅下車。所要時間約 25 分

<航空機からのアクセス>

- ・ 中部国際空港から名鉄特急に乗車し、名古屋駅または金山駅で下車、そ  
の後地下鉄に乗り換え（上記参照）
- ・ 又は、空港バスにて栄または名古屋駅に出て、地下鉄に乗り換え。

<キャンパスマップ>

名古屋大学 東山キャンパス

- ・ 経済学部研究科棟：14 番
- ・ 南部食堂：78 番



ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。今回も皆様のご協力をもちまして、無事完成までこぎ着けることができました。今回はEIERの機関購読案内、IEAの開催案内を同封しております。合わせてご確認いただき、特にEIERについては、購読増加にご協力をよろしくお願いいたします。

編集担当・小川一仁(大阪産業大学)